

対談

企業×ジェンダー

Ⅱ 持続的な運動

株式会社エトセトラブックス
代表

松尾 亜紀子 さん

株式会社JobRainbow
代表取締役

星 賢人 さん



り
ぶ
る

さ
っ
ぽ
ろ

対談

企業 × ジェンダー ＝ 持続的な運動

フェミニズムとLGBT支援の活動に携わり、
経営者でもあるお2人の対談。

熱いトークは2ページにまとめるのが
心苦しいほど、濃い内容となりました。
お2人が「ビジネス」を立ち上げた目的について、
社会にあるジェンダー課題について、
それぞれの切り口でお話いただきました。



松尾 亜紀子さん

エトセトラブックス代表・編集者。出版社で15年間編集者として勤めたのち、2018年にフェミニズム専門出版社「エトセトラブックス」を設立。2019年にフェミマガジン「エトセトラ」を創刊、田嶋陽子の特集するなど話題となる。他に同社の刊行物は、「痴漢とはなにか被害と冤罪をめぐる社会学」、「フェミニズムはみんなのもの」など。2021年1月から古今東西のフェミニズム書を集めた書店をスタートさせた。性暴力の根絶を目指すフラワーデモ呼びかけ人のひとりでもある。

株式会社エトセトラブックス
住所：東京都世田谷区代田
4-10-18 ダイタビルF



星 賢人さん

自身もLGBT(ゲイ)の当事者として、月間55万人がアクセスするNo.1 LGBTダイバーシティ採用広報サイト「ジョブレインボー」を立ち上げる。東京大学大学院情報学環教育部修了。Forbes 30 UNDER 30 in ASIA / JAPAN 選出。孫正義育英財団1期生。板橋区男女平等参画審議会委員。「LGBTの就活・転職の不安が解消する本(2020/3、翔泳社)」を出版。これまでに上場企業を中心とし、500社以上のダイバーシティコンサルティングを実施。

株式会社
JobRainbow



— 自己紹介をお願いします。

松尾亜紀子さん(以下、松) エトセトラブックスというフェミニスト出版社の代表をしています。また伝えられていない女性の声が無限にあつてフェミニズムの形も個人の数だけある、「エトセトラ」その他と言われていた女性たちの声をお届けするフェミニストプレスです。2018年12月に起業し、「エトセトラ」というフェミマガジンを年2回発行する他、単行本を年に4冊程度出版しています。また2021年1月14日から、書店を始めました。

星賢人さん(以下、星) 私自身がゲイの当事者であり、就活中の友人が、LGBT当事者であるという仕事の能力に全く関係ないことで不当に判断されたことへの悔しさから、当事者と社会双方にウィンウィンな関係づくりをすることを目指して2016年の1月に「JobRainbow」を立ち上げました。求人情報サイト「ジョブレインボー」は2019年度の実績で毎月50万人ほど、最大55万人ほどにアクセスいただいている日本最大のLGBT向けの求人プラットフォームです。

— ジェンダー課題を解決する上で、今気になっていることや注目していることはありますか？

星 今後の社会ではインターネットがキーになっていくと思います。一方でツイッターを見ていると心無い発言や中傷など、見ているのがあり危惧しています。松尾さんはオンライン上のフェミニズムやLGBTの運動がどうあるべきだと思いますか？

松 私もお話したいと思っていました。特にツイッターというツールは、バックラッシュ^{※2}以降フェミニズムの運動自体に元気がなくなつて潰されてきたという状況にあつて、女性自身の内面を露出する装置として有効に機能してきていると思います。一方でバックラッシュもひどくなるし、バッシングが可視化されていますね。SNSは一つの言葉が強いため、その言葉に振り回されたり分断が生まれたりもしています。それに対抗するためにも本を読んで言葉を得て、それでネットに戻りたい方は戻れば良いし、戻らない選択をする方もいるだろうし。このままだと私個人は希望は見いだせないとい

うか…ただやっぱり#MeTooや#KuTooというハッシュタグを使った運動に可能性はあるんじゃないかな、そのためには言葉とか現場が大事なんじゃないかと思っています。

星 そうですね。フェミニズムやLGBTって、今まで陽が当たってこなかった存在だと思っんです。インターネットというのは、そうしたマイノリティとの親和性が高いメディアだとは思いますが。匿名性が非常に高く、かつ拡声器になるので人と違った意見ほど拡散力や共感を呼んでマイノリティ同士でつながることができるよう。だからフェミニズムやLGBT、障害や人種差別の問題がここまで大きくなり、団結して重要な位置づけになってきたのだと思います。一方でネットを通じ、あらゆる側面において分断が起きているので、向き合い方を考えていかななくてはいけない段階に入ったかなとも思います。

ただ、私はとても楽観主義なので、基本的には良い方向に進むと思っています。若い人を中心にネットとの向き合い方がわかっている方が増えているので、上の世代の方にも伝わってい



くと、ネットがよりリアルなメディアになり暴言や中傷などが、今後ピークを迎えた後に減少していくのではないかと感じています。

松 すこい！今始めて希望が持てました私！たしかに10代20代はツイッターに限らず、インスタグラムやティックトックで「場」を作れる。コロナ禍で、発信する場所が大事になってくるなと思っていたのですが、確かにリアルな場じゃなくてもSNS上で場を作れる人が発信するっていうのはありですね。

——企業がフェミニズムやジェンダーの視点を取り入れることでどんな影響があると思いますか？

松 ウーマンリブ頃^{※5}までのフェミニズムは学問というよりはひとりひとりの女性のものだったという局面が大きいんですね。私はフェミニズム出版社にしても書店にしても、ビジネスではなく運動だと思っています。運動としてやっていることが私やスタッフ2人の日々の糧になる。あるいは本を書いていただいている作家執筆陣の原稿料になる。

星 松尾さんが運動の中でやってらっしゃるということに、尊敬を感じています。それってすごくサステイナブルな運動になると思うんですよ。学生時代NPOに関わっていたのですが、やはり皆さん手弁当になっちゃって、継続性がなくなるんですよ。そうすると運動自体も継続性がなくなってしまう。求人サイトという形で運営しながら収益性と、企業のLGBTの環境改善をしていく運動の両方を担保した形でやって、はじめて企業としてやることに意味があるかなと感じています。

松 そうなんですよ、一部ですけど、フェミニズ

ムを商売にしていることの矛盾に対する批判もあります。とくにフェミニズムなんて資本主義と相対するものなのに利益を追求している。そういう批判って星さんのところには来ませんか？

星 めちゃめちゃ来ますよ(笑)

松 めちゃめちゃ来るでしょう(笑)でも今の話を聞くと、「持続可能な」という観点もあるし、皆がそこで食べていけないといけないというのが置き去りにされている。

たとえば今注目されているフェムテックというビジネスで、どんどん新しい会社が出てきているけれど、やっぱりフェミニズムの視点がないとだめだなんて感じます。それがなければ、結局女性の体が商売道具になってしまうと危惧しています。助かる人がいて便利になる一方で経済力の問題もあるし、色々課題が出てきて簡単なことじゃない。だから企業側がどんどんフェミニズムの視点を取り入れてほしいし、ここを置き去りにしたらだめだと思います。LGBTもそうですよ。『多様性がある』生産性』になるのではなく、誰がマイノリティなのか、何のためにこういう運動をしているのが置き去りにされてはいけないと思います。

——ダイバーシティな社会ってどんなものですか？

星 「ダイバーシティな社会をそのまま受け取ってしまうと、何も意味をなしていないと思ってしまう。つまり単純に多様な人がいるという事実状態しか示していないです。ダイバーシティにはインクルージョン^{※6}という概念をセットで考えないといけない。多様な人がいてそれを組織として社会として受け入れていく、包摂していく、という観点が必要で、単純にチームメンバーの多様性を増やしても、インクルージョンでなければ、その方は個人として100%120%の力を発揮することはできません。この世の中に同じ人はいないと思っています。目の前の人が違うということをきちんと

認識する。その認識に基づいて尊重し合うことでマイノリティが安心感を持ち、その場を居場所と感じられる。これが社会にとっても組織にとっても大事になってくるポイントだと思います。

松 性差別がなぜ起こるかって言うと、権力構造があるからなんです。なんでその権力構造があってはいけないかというところ、そこで踏みつけにされる人がいるという実態があるからであって、その踏みつけにされている人がいなくなることが一番大事なんです。なんのためのフェミニズム、ジェンダー、ダイバーシティの視点なのかっていうところをセットで言っていく必要があると思います。

星 男性で年齢が高い人に権力が集中していく家父長的な権力構造を打破していくことがまだまだ日本企業では必要ですね。

松 構造を変えるには、運動を持続させることが必要です。そして、隣の女性と連帯することが大事だと思います。出版をやっている人間として、そのために本があるとも思っています。本を貸し借りして、感想を言い合い、言葉を一緒に獲得するというプロセスであなただけのフェミニズムを探してもいいと思います。

星 止めちゃいけないですよ。現状に満足するとそこで終わってしまい、また元に戻ってしまいます。持続的な運動を進めていき、どんな課題にも個人にも向き合える環境をつくるのが、今企業に求められていると思います。

※1 レズビアン(lesbian)、ゲイ(gay)、バイセクシュアル(bisexual)、トランスジェンダー(transgender)の略。LGBTOはこれにクwestioning(queering)を加えたもの。セクシュアルマインリティ性の少数者の総称として使用される。

※2 「炎」揺り戻し。ジェンダーバックラッシュともいい、ジェンダー問題や差別を解消する動きに対する反対力をさす。日本では1990年代から2010年代にかけて断続的に起こった。

※3 アメリカの映画プロデューサーによる性暴力セクハラが2017年10月に報道されたことをきっかけに広がった。性暴力セクハラ被害について書き込むオンラインキャンペーン。

※4 俳優の石川優美さんが呼びかけた職場などでの女性に対するハイトールの強制をジェンダー差別として廃止を呼びかけた運動。MeTooと同じく、主にツイッターでの発信がされた。

※5 女性解放運動フェミニズム運動という女性の権利を求める運動。1960年代のアメリカから世界的に広がり、日本でも1970年代から盛り上がりを見せた。

※6 inclusion 包括、包含。

札幌でジェンダー課題に取り組む人々たち

札幌にもジェンダーや社会課題を解決することを、考えてお仕事をしている方々がいいます。自分らしく働くためのヒントや刺激がいっぱいのインタビューです。



Interview 7 /

株式会社イロドリトイロ

代表 **新岡 唯**さん

北海道日高町出身、1989年生まれ。2016年に東京で長男出産後、待機児童となったことを契機に札幌へ転居。その後、ビジネス系フリーランスとなり、全国各地企業の人事や広報支援を行う。
2019年にイロドリトイロ株式会社として法人登記をし、現在は、サッポロファクトリーにて託児常設コワーキングスペースを期間限定で運営中。



La Salud HP



イロドリトイロ HP

Q イロドリトイロ株式会社さんで運営されているコワーキングスペースはどんな場所ですか？

2019年2月に託児を常設したコワーキングスペースとして、サッポロファクトリーの中に「La Salud」というスペースをオープンしました。北海道弁の「〜しささる」「〜らさる」という言葉が好きで、そこから「ラサル」としました。お仕事はもちろんですが、自分磨きの時間や趣味の時間にも使っていたりするために使っています。また、赤ちゃんや子どもを安心して、連れてこられる場所としても配慮しています。お父さんが在宅ワークで、お子さんを「La Salud」に連れてきて、お子さんは託児、お父さんは仕事、お母さんはお家でのんびりという使い方もいいですね。

Q La Saludは人とつながれる場所でもあるんですね。

働いているお母さんも同じ育児をしているお母さんとのつながりがほしいと思うんです。結局、働いているから職場と保育園と家との往復しなくて、土日は家族で過ごすだけです。そうすると新しいお友達がいなくて、土日は家族で過ごすだけです。なので、育児をしているお母さん達が集まって、孤独にならない場所が必要だと思っています。私も経験していて、お母さんでもなく、職業人でもなく、私個人としての新岡唯。一人の女性としての新岡唯をわかってくれたい人と話せないと、心って満たされないんです。なので、わざわざ集まるというよりは、集まれる場所。友達と会えて、気兼ねなく話ができる場所が必要だと思います。コロナの影響でなかなか難しいのですが、La Saludでも利用者さんの横のつながりをつくりたくて、お話を伺い私から他の利用者さんをご紹介します。

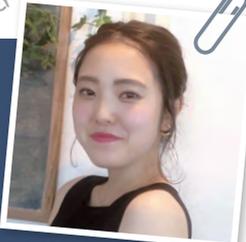


Q 今後、La Saludが、なりたい場所ですか？

サードプレイスではなく、2・5プレイスという場所を目指していきたいです。子どもたちも毎日ここに来て、学校や学童という同じ学区の人以外のいろいろな人とつながれるような場所、生活拠点のような場所になっていけたらすごくいいなと思っています。以前仕事に息子を連れて行ったことがあって、その時から息子が一緒にお仕事に行くのが楽しみになったみたいなんです。お仕事が、楽しくてカッコイイものって思ってくれているのはすごく嬉しいです。子どもにも働いている姿を見せることで育つものもあると思うので、子どもたちと一緒に働く場所に使いたいです。

Q 立ち上げたきっかけを教えてください。
当時、札幌はまだ託児付きのコワーキングスペースがありませんでした。札幌は政令指定都市の中でも働いていない母親が多い都市です。そんな中で育児中のお母さんが、息抜きや仕事がしたい時にできない、保育園に一時託児で預けられなかったりと、どうしても女性の生きづらさがありました。育児をしていないお母さん達が孤独にならないようにサポートする場所が必要とされていると思ったのがきっかけです。そこで、お母さん達に2年間で800件くらい直撃インタビューをさせてもらい、それをもとに「La Salud」を立ち上げました。

私は育児でキャリアを中断せず中長期的に働き続けるためには、選択肢を広げられる働き方をしていくことが大事だと考えています。会社で働いただけでなく、自分の選択肢を広げられる、就きたいお仕事に就けるようにみんなで支えあって子育ても仕事と家事の両立もしんどくならない場所にしたいです。


 しあわせ
設計舎HP


しあわせ設計舎

代表 菊島 聡美さん

北海道出身。公立短期大学卒業後幼稚園教諭として働くが、激務と偏った食生活により心身のバランスを崩し退職。その後大手ナチュラル・オーガニック会社入社をキッカケに、体のケア方法を勉強し在籍中に健康美に関する資格を多数取得。現在は独立して、働く女性が健康で美しくいられるように、地域と連携した商品の企画、企業の研修や個人向けカウンセリングを行う。

Q どういったお仕事をされていますか？

「働く女性の健康美をコンセプトに、主に働く女性が健康で長く働けるため、食事やセルフケアの方法をお伝えしています。例えば、Fヨーグルトという深川市にあるヨーグルト専門店で、働く女性の腸内環境を良くするための「With F」という企画を組ませていただきました。毎日少しずつ乳酸菌を摂って、疲れにくい体をつくり、免疫力アップするためのレシピを定期便という形で届けています。」

プロジェクトを通して、企業や私に関わる方が健康になって、ご自身でも知識をつけてもらおうと健康の輪が広がっていくと思います。企業向けのオーガニックやナチュラルについての研修もしているので、関わる企業の「健康リテラシー」を高めていくのも私の役割かなと思っています。

Q 企業向けの研修や個人のカウンセリングは、どんな内容ですか？

体のケアや食事など日々の生活のことについてのお話しをしています。今、日々の生活でなんとなく過ぎず、ということが容易でできるようになったと思うのですが、食事に関しては「なんとなくは危険だったりする」、自分が口にするものがどういう効果、影響があるのか考え、意識することが大事だと考えています。それだけで口に通びたいかどうかという意識も変わってくると思います。

企業に向けては、女性職員と企業の間に入っていきたいと感じています。以前、「会社に生理休暇があるけれど取っていないのかわからない」という方がいらっしやあって、まだそう感じる方が多いと思います。制度は整っているけれど、実際の利用率が少なく、ハードルがあることが多いです。すごく親身な上司の方もいて、「生理のことや体のこととなると、上司の僕には言いにくいと思う」

とおっしゃるので、女性社員さんと上司の間に私が入って、間役・調整役みたいになれたらいいのかなと思っています。

Q 病院での診察とはかなり違いますね。

カウンセリングをさせていただいている方の中には、通院中の方もいらっしやいます。病院で補える部分は、症状が出たものに対してどのようにアプローチしていくかという対症療法になると思います。日本人は、薬がすぐに手に入る環境にあるため、ちよつとした不調でもすぐに薬に頼ります。しかし、病気でない不調に対しては、まずは自分の体の声を聞いて、どんな習慣がその不調をもたらしているのかを考える必要があると思います。私がお伝えしているのは日々の生活を改めて、症状や不調がないようにするというアプローチ方法です。どちらかが正しいとか、間違っているというのではなく、両方やっていく必要があると思います。健康リテラシーを高めて自分の体は自分で守るという意識、体を労うという習慣を身につけることを伝えていきます。

Q 女性が長く働き続けるため、体を大切にするにはどうしたらいいですか？

女性は特に婦人科系の病気が、多いんですね。検査も大事ですが、自分の体に触れて、知っていることはすごく大事だと思います。子宮脱や乳がんなど、体の異常に気付くためには、正常がどんな状態か知ることが必要です。正常の状態を知らなければ、触った時に何が異常で何が正常なのか分からないし、数日の変化では気づきにくいことも多々あります。早いうちから触るということを習慣にすると、年齢を重ねたときや異常が生じたときに、自分の体の変化にも早く気づけるようになると思います。女性に限らず、自分の体の状態を知るといことは絶対にはやっ

た方がいいと思います。

あとはある程度自分の好きなものや嗜好品に対するリスクを知るのも大切です。リラックスとして楽しむ物には問題はないと思いますが、取りすぎたり使すぎたらどうなるんだらうといったリスクを知っておいてもらいたいです。



MOOND
by LPC HP

MOOND by LPC

有限会社アジュマ 広報担当

山本 綾乃さん

有限会社アジュマ
(MOOND by LPC運営会社) プロフィール
1996年創業。日本で初めて女性だけで経営する
女性のためのフェムテック&プレジャーテック
ショップとして東京でスタート。
2019年にMOOND by LPC大阪店をオープン。
商品の販売だけでなく、女性の身体や性に関
するイベントや勉強会を定期的に行っており、
全国でポップアップショップを展開している。

MOOND by LPC さんとはどんなお店ですか？

「日本初のフェムテック専門店」です。フェムテックとは「Female+Technology」を組み合わせた言葉で、生理、更年期、妊娠、出産などに関する女性特有の健康問題を解決する製品とサービスの提供のことで、弊社では「女性が女性のためにつくるもの」と定義しています。MOONDというショップ名は、生理など「女性のリズム」と結びつきの深い月に由来しています。

す。また40〜50代の方が膣トレやデリケートゾーンケアの相談に来てくれます。こうした商品を手取る機会ほとんどないと思うので、実際に手に取ってみることで安心して使っていたらと思います。また対面で身体のケアや性交痛などのお悩みについてご相談いただける安心感があると思います。

Q お客さんに商品を通してどんなことを伝えていきたいですか？

「私の身体は私のもの」という言葉は強く伝えたいです。私の身体なのだから、自由に触っていいし、我慢しなくていいし、もっと身体を楽しんでもいいということなんです。女性が性やプレジャーグッズについて話しくいという風潮はありますが、それを変える素地はできていると思っています。

以前名古屋の百貨店で、弊社がデリケートゾーン関連ブランドの方とトークイベントを行いました。百貨店の一角で、デリケートゾーンやプレジャーの話、いかに大事かという話をしたのですが、一切笑ったりエロということに結び付ける人はなく、20代から50代以上の女性が真剣に話を聞いてくださいました。参加された方からも好評で、初めて聞いた学んだという声が多かったです。札幌でも、ぜひまじめな話としてデリケートゾーンケアや、プレジャーの話をするイベントをやりたいです。

Q ショップが自分の身体について知ったり、話す拠点になっているんですね。

そうですね。お客様からの相談には、誰も教えてくれないので知識がなかったり、パートナーから言われたことに悩んでいたというケースがあります。性に関する正しい知識を得るとするのはなかなか難しいです。男性はアダルトビデオから間違った知識を得ることが多いんです。女性自身は本当に学ぶ機会がないです。やはり性に関する知識を中学校、高校で教育としてしっかり学ぶ社会になればいいですね。やっと女性の悩みにスポットライトが当たるようになってきて、生理や身体について話せる素地ができてきたので、これが当たり前になるといいなと思います。

「フェムテック」や「デリケートゾーン」など、新しい言葉ができることで市場が広がったり認知が広がったりすると思っています。こうした分野では新しいものがどんどん出てきているので、今後フェムテックの商品が当たり前になる社会になっていけばと思います。

※1 大丸札幌店の3階にある「美・食・雑貨をミックスして女性の感性をくすぐるものを集めた新感覚ゾーン」
※2 セルフレジャー マスターベーションのためのグッズ 海外ではリップスアイテムの一部として販売使用されている。

Q 札幌には2020年10月から2021年2月の期間限定で 出店されましたが、きっかけについて教えてください。

MOONDは2019年に大丸梅田店にオープンしました。大丸様の社内ではMOONDの出店や商品について共有してくださったと思うんですが、大丸札幌店からもお声がけをいただいていたKIKYOCCHO^{※1}での出店にいたしました。

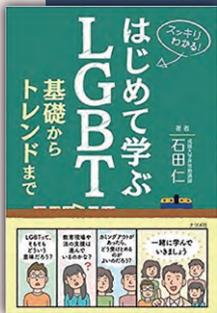
KIKYOCCHOは、様々なジャンルのショップが並んでいて、お越しになるお客様の年齢も10代〜50代と大変幅広いです。すべての世代の女性のセクシユアルヘルスをサポートするMOONDだからこそ、流行に敏感な若い世代に最新の生理用品やフェムテックを知ってもらおうのと同時に、今実際に更年期などの悩みを抱えている30代以降の方にもアプローチできると思います。今後も大丸札幌店でポップアップの出店を予定しています。次回は2021年4月14日(水)から4月27日(火)まで出店いたします。

Q どんなお客さんがいらっしやいますか？

カップル、親子やお友達と、また女性お一人でいらっしやる方もいます。販売をしていて「これ娘にプレゼントしたいです」という方もいます。商品を買っかけに親子で生理や性について会話ができたともうかがいます。



Sexuality

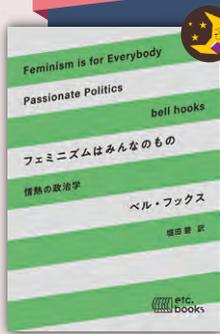


はじめて学ぶLGBT基礎から
トレンドまでスッキリわかる!

石田仁 著
ナツメ社

対談いただいた星さんお薦めの書籍です。LGBTに関する本は数多く出版されていますが、中でも初めて学ぶ方にわかりやすく編集されています。社会保障やカミングアウトなど、性的マイノリティに関する基礎がたくさん書かれています。正しく理解し、みんなが尊重しあい自分らしく生きられる社会になるための本だと思います。

Feminism



フェミニズムは
みんなのもの

ベル・フックス 著
エトセトラブックス

対談いただいた松尾さんが運営するエトセトラブックスで出版されている作品です。フェミニズムとは何か、どんな運動をしてきたのかが、わかりやすく書かれています。さらにフェミニズムの歴史を知ることでもでき、自分がどの時代をどのように生きてきたのか、これからどうなっていくのか、考えさせられます。みなさんに手に取ってもらいたいと願っています。

Health Care



潤うからだ

森田敦子 著
ワニブックス

菊島さんや山本さんのお話に関連する書籍です。女性の体について、悩みを抱えながらも恥ずかしさから相談できない女性は多くいます。特にデリケートゾーンの悩みでは顕著です。女性が自分の体を知り、ケアすることの大切さを教えてくれる一冊です。新しい自分に出会えるかもしれません。読み終わった後、身近な人と共有できると素敵ですね。

Business



炎上しない企業情報発信
ジェンダーはビジネスの新教養である

治部れんげ 著
日本経済新聞出版

昨今、CMやSNSの発信による「炎上」する事例をよく耳にします。炎上はなぜ起こるのか。何が問題だったのか。この書籍では大手企業の名前をあげて、ジェンダーバイアスによって炎上した事例に迫っています。そして、「ジェンダーはビジネスの新教養」という言葉で社会にジェンダー課題を問いかけています。新しい教養を身につけて一歩前に進んでみませんか？

りふるのススメ

このページではセンター職員がおススメする
本・映像作品をご紹介します。
あなたのお気に入りになったら嬉しいです。

札幌エルプラザ情報センターを知っていますか？

札幌エルプラザ内にある「情報センター」では
男女共同参画を含めた4分野の資料を
閲覧したり借りたりすることができます(ご利用は無料です)。

 マークが付いているものは情報センターで
借りることができますので、ぜひ遊びに来て下さいね。

情報センターへのお問い合わせは

011-728-1223

(開館時間 9:00~20:00)
(貸出時間 9:00~19:45)

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

札幌市男女共同参画センターでは相談窓口を開設しています。相談料は無料です。各相談では専門の相談員がお話をお伺いし、秘密は固く守ります。相談内容から浮かび上がった問題は、ジェンダーに関わる課題として市民や行政に投げかけ、男女共同参画社会の実現に生かします。

	日 時	相 談 員	相 談 方 法	相 談 内 容
女性のための 総合相談	第1・3 水 10:00~12:00 第2・4 水 18:00~20:00	カウンセラーなど (女性)	面談/電話 (011-728-1225)	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとの関係や、家庭における性別役割に関わること ・セクシュアリティや恋愛、対人関係に関わること ・職場や地域における性別役割に関わること
女性のための 法律相談	第1・3 金 18:00~20:00	弁護士 (女性)	面談	<ul style="list-style-type: none"> ・DVや離婚、別居に関わること ・職場や地域等でのセクシュアル・ハラスメントなど ・性別を理由とした不当な扱い、嫌がらせなど

予約受付電話:011-728-1255
※完全予約制なので事前にお電話でご予約ください。

編集後記

今回のテーマは「ビジネスでジェンダー課題を解決する」です。ジェンダー課題解決のためのビジネスってなんだろう？どんな事業があるの？と思われる方も多いでしょう。けれど、日本ではたくさんの方がビジネスという手段を使って、本気でジェンダー課題に取り組みれています。分野も、ファッション、IT、子育て、住居など様々です。その中から今回5名の方にお話を伺いました。対談で出てきた「持続的な運動」という言葉がとても印象に残っています。この運動によって社会が変わり、すべてのマイノリティがそのまま尊重される社会が来ますように。その変化の一つのきっかけとなれたら幸いです。

北海道の女性起業家を応援する「ほくじよさ」が「WATASIMO」を開催しました

「女性起業家プレゼンテーション WATASIMO」は、北海道内の女性起業家ロールモデルの発掘や発信をコンセプトに、2021年2月13日(土)に開催されました。道内各地の女性起業家9名がプレゼンテーションを行い、それぞれのビジネスや社会を変えたいという熱い想いを語りました。

また、女性主体の事業を創出する「Tumbiang」を創業された若宮和夫さんに「女性の起業が当たり前の社会へ」というタイトルで講演をいただきました。「みなさんは未来の当たり前を創り出している」という心強いメッセージをいただきました。働き方を変えることは生き方や社会を変えることだと感じました。

みなさんも、多様で個性的な起業家の存在を知って、働き方や生き方を考えてみませんか？



WATASIMO HP

発行月：令和3年3月

発行：札幌市男女共同参画センター

【指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会】

facebook： <https://www.facebook.com/pages/札幌市男女共同参画センター/377759212234904>

所在地：〒060-0808

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

電話：(011)728-1255 FAX：(011)728-1229

ホームページ：<http://www.danjo.sl-plaza.jp>



本誌のタイトル「りぶる」は、英語(ripple)で「さざ波」という意味です。男女共同参画の意識がさざ波のように、少しずつ広がって欲しいという想いを込めました。